

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.11 vol.163

皮膚がん登録数が 3年連続で全国トップになりました!

皮膚腫瘍科・皮膚科

全国がん診療連携拠点病院の院内がん登録データが毎年集計されています。通常、各拠点病院での2年前のデータが翌年夏に国立がん研究センターへ提出され、集計結果は2年遅れて国立がん研究センターのHP上で発表されます。

本年8月に2017年の院内がん登録患者数が発表されました。この中で皮膚がん登録数が全国437施設の中で第1位の登録件数となりました。2014年10月に当科が開設して以来2015年に登録件数全国1位となってから、3年連続の快挙となります。下の表にお示ししている通り、2位の施設は入れ替わりがある中で、当施設は2位以下の施設と圧倒的な差の登録件数を継続できております。また、他のトップクラスの施設を見ていただくと、ほとんどが多数のスタッフを有する大学病院であるのに対し、当科は4名の医師(スタッフ2名、レジデント2名)で構成されています。少人数でこれだけの症例を診ることができるのは、腫瘍に特化した診療をサポートいただいている病院、および、メディカルスタッフの皆様のご協力があることと感謝しております。患者さんはもとより、当科を信頼しご紹介いただいております連携施設の皆様にもこれまで以上に医療センターを紹介してよかったと思えるような医療を一人一人の患者さんにお届けできるよう邁進したいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：皮膚腫瘍科・皮膚科レジデント 小森 崇矢)

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録全国集計

2015年～2017年症例

部位区分：皮膚

登録数上位10施設

2016 (434施設)			
都道府県	施設名	症例数	
1 鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター	303	
2 熊本	国立大学法人 熊本大学医学部附属病院	261	
3 秋田	国立大学法人 秋田大学医学部附属病院	253	
4 新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	251	
5 千葉	千葉大学医学部附属病院	241	
6 兵庫	兵庫県立がんセンター	236	
7 京都	京都府立医科大学附属病院	218	
8 東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	204	
9 山形	山形大学医学部附属病院	185	
10 福岡	国立大学法人 九州大学病院	182	

2015 (427施設)		
都道府県	施設名	症例数
1 鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター	250
2 千葉	国立大学法人 千葉大学医学部附属病院	240
3 新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	217
4 秋田	国立大学法人 秋田大学医学部附属病院	208
4 兵庫	兵庫県立がんセンター	208
6 福岡	国立大学法人 九州大学病院	206
7 三重	国立大学法人 三重大学医学部附属病院	196
8 熊本	国立大学法人 熊本大学医学部附属病院	191
9 福岡	久留米大学病院	174
10 栃木	自治医科大学附属病院	163

2017 (437施設)		
都道府県	施設名	症例数
1 鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター	284
2 千葉	千葉大学医学部附属病院	258
3 新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	257
4 熊本	国立大学法人 熊本大学医学部附属病院	227
5 兵庫	兵庫県立がんセンター	219
6 秋田	国立大学法人 秋田大学医学部附属病院	209
7 東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	202
8 埼玉	獨協医科大学埼玉医療センター	187
9 福岡	国立大学法人 九州大学病院	181
10 大阪	大阪市立大学医学部附属病院	172

中南大学湘雅医院(中国・長沙市)と 「学術交流協定」を締結しました

2019年10月13日(日)に中国・北京で、鹿児島市と友好都市締結をしている長沙市に位置する中南大学湘雅医院(院長 Lei Guanghua)と、鹿児島医療センター(院長 田中康博)との学術交流協定締結の調印式を行いました。2017年4月に私 松下が中南大学湘雅医院を学術講演で訪問した際に今後の学術交流について意見交換を行い、2018年11月から半年間、当院皮膚腫瘍科・皮膚科に臨床修練留学生を受け入れました。中南大学湘雅医院(Xiangya Hospital, Central South University)は、病床数3,500床を有し先進的な臨床を行うのみでなく、数多くの研究業績を上げる中国で屈指の医療機関です。今回の学術交流協定の締結後は、病院間の複数の診療科や看護部などのメディカルスタッフ部門で、臨床のほか数多くの学術研究を行う高度な学術交流を行っていきます。

(文責:皮膚腫瘍科・皮膚科部長 松下 茂人)

日本と中国あるいは外国の医療制度は異なります。アメリカのYale大学の支援で始まった中南大学湘雅医院で日本の若い医療スタッフが研修することは、世界レベルを知るチャンスと考えています。一方、当院の高度医療を習得することは湘雅医院の若いスタッフも意義あることと考えています。お互いに交流することで真の医療、規範となる医療が極められたら幸いです。今回の学術交流がきっかけになることを願っております。

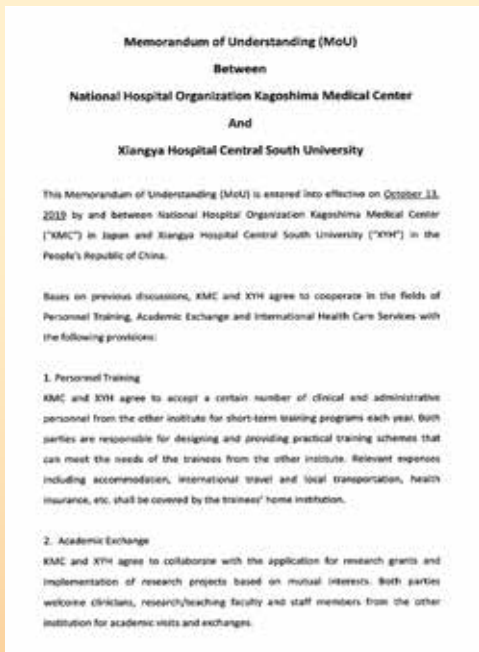
(文責:院長 田中 康博)



写真左から

中南大学湘雅医院 Lei Guanghua 院長
鹿児島医療センター 田中康博院長
中南大学 Chen Xiang 副学長
中南大学 Chen Lizhang 副学長
鹿児島医療センター
松下茂人皮膚腫瘍科・皮膚科部長

締結した学術交流協定書



令和
元年度

楽しく学ぶ基礎看護技術講座2

認知症患者の看護



令和元年10月5日(土)、第2回目の「令和元年度楽しく学ぶ基礎看護技術講座2：認知症患者の看護」を開催し、院内外合わせて47名の新人看護師の参加がありました。

この研修では老年期の特徴をふまえ、認知症の基礎知識と看護の実際について理解することや、演習を通して認知症患者の行動を理解した看護の実践力を身につけることを目的としています。まず、当院の認知症看護認定看護師が講義を担当し、「認知症の理解」「入院中の認知症患者について」「認知症患者に対するコミュニケーションの基本」を学びました。コミュニケーションの基本の中では、ユマニチュードの視点を学び、またタッチングの技法では、指先だけで触れる・掌でしっかりと触れるといった2つ技法の違いを互いに体験し、掌でしっかりと触れることの大切さを実感することができていました。グループワークでは、認知症看護における自己の課題について意見交換し、確認した上で「紐解きワークシート」を使いながら事例検討を行いました。「紐解きワークシート」とは、援助者が困難だと感じる事例を、援助者の立場に立って考えながら、認知症患者の要望や願いに置き換えて考えることができるワークシートです。研修生は講義で得た知識と関連づけながら、患者の立場に立って状況を捉え、認知症患者を1人の人として尊重し、その人らしく療養生活を送るための具体策について意見交換していました。参加後、「今回学んだことを活かし、一方的にならず、また患者が不快にならないような話し方や態度でコミュニケーションをとっていきたい」といった意見が聞かれました。



今後、参加者が認知症患者の立場に立ち、ユマニチュードの視点を持ち関わっていただけることを期待しています。

(文責：副看護師長 尾辻 真由美)

鹿児島医療センター 第5回 地域緩和ケア連携研修会 開催報告



地域における医療や介護に従事する皆さまと、医療の提供体制や社会的支援の在り方、緩和ケア、緊急時の体制について情報共有し、役割分担などを協議する場として開催してまいりました「地域緩和ケア連携研修会」も、5回目の開催となりました。

第5回目は、令和元年10月24日（木）に「事例を通して連携を考える」と題し、五反田内科クリニックの松尾真里先生、鹿児島県看護協会訪問看護ステーションかごしまの池谷京子先生、鹿児島医療センター・緩和ケア認定看護師、退院調整看護師より、それぞれの立場からお話いただきました。

今回の研修には、地域の先生方、看護師、ケアマネージャー、MSW等、80名ほどの参加をいただきました。身体的・社会的なサポートだけでなく、揺れ動く想いに寄り添い続けることの大切さを感じました。事例発表後のグループワークでは、様々な立場の皆さまと、患者さまを支えるためにどのようなことが出来るのか話し合い、考える機会となりました。

第6回は、令和2年2月27日（木）に開催予定です。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

（文責：心理療法士 原田 彩）

新 任 紹 介



産婦人科
櫻井 景太

10月から勤務することになりました婦人科の櫻井景太と申します。卒後4年目です。

鹿児島大学出身で初期研修は久留米の聖マリア病院で行い、後期研修から鹿児島大学産婦人科に入局しました。鹿児島医療センターでの勤務は初めてです。婦人科のみの病院の勤務も初で、婦人科手術の件数が多い施設ですので、これを機に婦人科手技を磨いていきたいと思っております。

若輩者でガッツだけが取り柄なので精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科
馬越 瑞夫

10月より耳鼻咽喉科で勤務することになった馬越瑞夫と申します。7年ぶり2回目の当院勤務となります。当時より更に変貌したシステムにまだまだ戸惑うことも多いですが、前回とは違った形で更に貢献できるよう努力致す所存です。ご指導の程よろしくお願いいたします。



婦人科
牧瀬 裕恵

10月から婦人科に勤務することになりました牧瀬裕恵と申します。

平成21年に鹿児島大学卒業後、東京慈恵会医科大学産婦人科に入局し、平成27年より鹿児島に戻ってまいりました。鹿児島市医師会病院、今村総合病院で勤務させて頂き、鹿児島医療センターでは初めて勤務させて頂きました。これまでは婦人科良性疾患を中心に勉強してきたため、婦人科悪性腫瘍は不勉強な分野ではありますが、先生方にご教授頂きながら、日々の診療に従事して参りたいと思っております。よろしくお願いたします。



消化器内科
田淵 雅裕

令和元年10月より消化器内科医師として勤務させていただいております田淵雅裕と申します。鹿児島医療センターには8年前に勤務させていただいたことがありますが、3か月という非常に短い期間でしたので初勤務に近く、慣れるまで時間がかかり、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思われませんが、今まで経験してきたことをいかしながら、日々精進し頑張っていきたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 菌田・丹後田・西辻・吉永・迫田・椎原・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・菊永・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

